

★ 水稻のいもち病に注意！！ ★

- ・ 6月中旬に行った巡回調査の結果、葉いもちの発生は平年比多い発生でした(表1)。
- ・ アメダスデータを基にいもち病感染好適日を推定するシステムモデル(BLASTAM)によると、6月中旬以降、いもち病の感染好適日が府内各地で断続的に出現しています(表2)。
- ・ 7月4日発表の近畿地方1か月予報では、向こう1か月の気温は高く、降水量は日本海側では多く、太平洋側では平年並か多いと予想されており、今後病勢が進展しやすくなると考えられます。
- ・ 今後、移植時の箱施用薬剤の効果が低下することから、伝染源となるいもち病の発生が目立つ場合は、治療効果がある薬剤などで防除を徹底しましょう。

☆ 防除上の留意事項 ☆

- (1) 上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもちの重要な伝染源となる。
- (2) コシヒカリ、ヒノヒカリ、祝など発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発している水田や山間部の水田では特に注意し、防除適期に薬剤防除を実施する。
- (3) 葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤(カスガマイシン剤：商品名カスミン剤等、フェリムゾン・フサライド剤：商品名 ブラシン剤等)で防除する。
- (4) 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- (5) 農薬の選択に当たっては、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと。

(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

表1 葉いもち発生状況(6月中旬調査)

項目	本年	平年値
発生ほ場率(%)	20.0	1.3
発病株率(%)	2.1	0.3

表2 いもち病発生予察システム BLASTAM(アメダス)判定結果

発生指標 ●：感染好適条件

1：準好適条件1 3：準好適条件3 ?：判定不能

一般社団法人 日本植物防疫協会

2：準好適条件2 4：準好適条件4 -：好適条件なし

令和6年(2024年)		6月																													7月				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	
京都府	間人	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	3	
	宮津	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
	舞鶴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
	福知山	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●	●	3	-	-	
	美山	3	-	-	-	4	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	●	-	-	
	園部	3	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	-	-	-	
京都	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	3	-	2		
京田辺	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-		

※好適条件：最も感染に好適な気象条件が整った日

湿潤期間中の平均気温が20～25℃であり、湿潤時間が十分で、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温が20～25℃の範囲内

準好適条件：好適条件に続く感染に適した気象条件が整った日で、条件の違いにより1～4に分類される。

1. 湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が20℃未満
2. 湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が25℃以上
3. 湿潤時間は10時間以上だが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外
4. 湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数よりも短い